

〈庄内プロジェクトの紹介 まとめ〉

地域丸ごと「緩和ケア」

最期まで住みつつけられる街づくりを・・・

今までの半年間、当院の「緩和ケア」と「庄内プロジェクト」についてご紹介してきました。

「庄内プロジェクト」は庄内病院や協立病院、医療生協、その他の医療機関が独自に緩和ケアを元長っていくことではなく、「地域のがん患者さんとそのご家族」の「医療と生活」を「地域の医療機関や福祉サービスが協力しあい一体となってサポートする」ためのものです。

鶴岡市内の4病院（庄内病院・協立病院・宮原病院・斉藤胃腸病院）、訪問診療（往診）を行っている多くの診療所、二つの訪問看護ステーション（ハローナース・きずな）、そして薬剤師会、介護支援相談員など、多くの職種の人々がこのプロジェクトに協力しています。

昨年度に地域で約40名のがん患者さんがこのプロジェクトを通じて自宅に帰られました。

これから更に望んで自宅に帰る人が増えてゆくでしょう。



最終的に目標とするのは、“たとえがんになっても、さいごまで安心して暮らしていける地域（コミュニティー）を創る”ことです。この地域全体が、「病院でも自宅でも施設でも」、「手術や化学療法（抗がん剤）などの治療を受けていても受けていなくても」、早期から適切な緩和ケアを受けられ、最期を迎えるその時まで十分なケアを受けながら自分らしく生活し続けられるような地域になっていくことが理想です。

その実現のためには、私たちだけではなく、地域を支える一人ひとりの力が必要です。まずは、自分自身や家族の方々ががんになった時、「どのように生きて生きたいのか」「何を大切にしたいのか」、日ごろから考えてご家族と話し合うことから始めましょう。

そして、もしがんになってしまったら、どのように療養したいのか、自分が何を大切に考えているのか、遠慮せずに医療者に自分の気持ちを伝えましょう。

最後に、皆様自身ががんになった時、覚えておいていただきたいことをまとめます。

それは、「**2つの“G”の排除**」です。

1つめの**G**は「**我慢**」です。痛みやつらさを我慢せずに私たちに伝えてください。

我慢することは本人にとっても家族にとっても不幸です。伝えることでつらさも和らぎます。皆で知識やアイデアを出し合えば解決できることも増えます。

2つ目の**G**は「**がんばり**」です。がんの当人やご家族は既に十分頑張っています。

励ましの気持ちから出た「頑張れ」という言葉に逆に追い詰められることも多いのです。

そんな時には「頑張らなくてもいいよ。皆で支えるよ」と伝えてあげてください。

「頑張る」のは本人ではなく周りを支える私たちです。

地域の一人ひとりが主役となって、私たち医療や福祉のスタッフと一緒に、自分たちが安心して最期まで暮らせる地域を創ってゆくための一歩を、共に踏み出していきましょう。



名札にこのシールを貼った職員に
お気軽にご相談ください

院内庄内プロジェクト推進委員



院内庄内プロジェクト リンクスタッフ

